

## 須坂市教育委員会10月定例会 会議録

1 日 時 2025年10月23日（木）午後2時00分～3時45分

2 場 所 第四委員会室

3 出席した委員 教育長 勝山 幸則  
教育長職務代理者 二ノ宮邦彦  
教育委員 村石 忍  
教育委員 湯本 理恵

4 説明のため出席した職員

教育次長	中村 健司
学校教育課長	若林 久人
子ども課長	山岸 和幸
子ども課長補佐	鈴木 洋一
人権同和教育課長	高橋 克彦
文化スポーツ課長	寺沢 隆宏
生涯学習推進課長	寺澤 勝志
学校給食センター所長	村石 孝子
主任指導主事	後藤 昭彦
指導主事	北村 雅
指導主事	松木 智子
指導主事	西原 秀明
指導主事	宮崎 健
指導主事	松澤 裕子

5 事務局出席職員

庶務係長	宮崎 裕喜
庶務係	返町 美里

6 本日の会議に付した事項

(1) 学校等の状況報告について

(2) 議題

議案第49号 2025年度奨学生の採否について

議案第50号 須坂市子ども・子育て会議委員の委嘱について

議案第51号 須坂市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について

て

(3) 協議

(4) 一般行政報告

ア 教育長出席行事の報告について

イ 行事共催等承認の報告について

ウ その他

(5) その他

ア 教育委員会行事予定について

イ 須坂市教育委員会主催・共催大会等への出席について

ウ 2025年度人権教育啓発標語・ポスター最優秀作品等について

エ その他

---

教育長が開会を宣した。

(1) 学校等の状況報告について

教育長が説明を求め、主任指導主事が説明した。

- ・学校事故について、ここ近年で骨折が非常に増えている。
- ・不登校について新規をなるべく抑えている状況。小学生新規2名、中学生4名。
- ・中学校ごとのスクールカウンセラーの活用状況について。各中学校に配置しているカウンセラーに小学校へも行ってもらっている。カウンセラーの活動について、相談内容として多いのは「心の健康」、「不登校」、「友人、教

職員との関係」となっている。その他多いのは「授業参観、観察」の相談。  
気になる児童生徒についてカウンセラーへの観察の依頼が多い。

- ・今年度より事務負担をなくすためと思うが成果について書く欄がなくなったため記載がない。

指導主事より全国学力学習調査の分析結果のまとめの報告があった。

- ・今年度の対象は小学校 6 年生が393名、中学校 3 年生が351名、計744名。
- ・調査参加率は小学校 6 年生が95%、中学校 3 年生が85%。
- ・調査内容は教科に関する調査として、小学校 6 年生が国語・算数・理科、中学校 3 年生が国語・数学・理科、そして生活習慣や学習環境に関する質問となっている。
- ・今年度の中学生の理科について、1 人 1 台端末を用いた調査で、一人一人の問題の組み合わせが異なる出題となった。結果については I R T（項目反応の理論）に基づいて、異なる問題を解いても各設問の正誤パターン状況から学力を推定して表すという形になっている。来年度は英語がこの形式で実施される予定。
- ・須坂市では各教科の専門教員による分析委員会を設けて結果について分析をした。
- ・全体的に国語・算数の正答率について全国平均を下回る結果となった。個別最適化の学び、協働的な学びについて進められているが、学力定着まで至っていない現状がある。
- ・小学校は教科に関する調査結果が厳しいものとなった。昨年度はほぼ全国平均並みの結果が出ていたが、今年度は特に算数・理科において基礎的な知識技能が十分身につけていない実態が浮き彫りとなった。
- ・中学校は数学を除いて全国平均正答率とほぼ同程度であった。
- ・数学では基礎的基本的な知識技能の習得が不十分であることから、ドリルの時間の位置づけや、授業開始時の復習、最後の定着の在り方などを見直す必要がある。
- ・自己肯定感や学校生活等について、須坂市の子どもたちはおおむね良好な結果であった半面、将来への夢を持っていると回答した児童生徒が全国平均を

下回った。キャリア教育の在り方や、日常生活と関連した教科学習の在り方が課題。

- ・ 小学校も中学校も昨年に引き続いて、上位4分の1に含まれる児童生徒の割合が全国平均より少なく、下位4分の1に含まれる児童生徒の割合が多いという結果となった。
- ・ 次に生活習慣や学習環境に関する質問について、須坂市の子どもたちは高い自己肯定感を持っている。「自分にはよいところがある」と答えた小学生が91%、中学生は87%に上り、全国平均よりも高い値となった。
- ・ 高い自己肯定感の背景には、先生方が児童生徒一人一人のよさを見つけて認める関わり方を続けているという背景がある。これからもこの姿勢を大切にしていってほしい。
- ・ 「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に対し、できると答えた小学生が79%、中学生が76%だった。また、「先生は授業やテストでわからなかったところを分かるまで教えてくださいませんか」という問いに対し、はいと答えた小学生は90%、中学生は86%に上り、いずれも全国平均を上回っている。子どもたちが先生を信頼し、安心して相談できる環境であり、先生方の丁寧な指導や支える体制がしっかり構築されている。
- ・ 授業でのPCやタブレットなどICT機器について、ほぼ毎日または週3日程度と答えた小学生は66.3%、中学生は48.6%となり全国平均を下回る結果となった。須坂市では授業でタブレットやPCを使う頻度が全国よりも少ないという傾向は昨年度から引き続いてのものであり、校長会や教頭会、研修会でも活用を呼び掛けていたが、改善されるというところまでいかなかった。
- ・ 最後に今年度の調査では国語、算数数学、理科において「得意ですか」「好きですか」「授業内容はよくわかりますか」という設問があったが、「好きですか」という設問に対し肯定的な回答が全国平均を下回るか同程度となっており、小学校中学校ともに学習への意欲が課題として見えてきている。
- ・ 子どもたちの興味関心を湧き立て、わかる・できるを実感できる授業を求めていかなければならない。

教育長：

- ・前半の児童生徒の状況と後半の学習状況と分けて質問を受け付けたいがどうか。
- ・学校等の状況について、新規継続不登校者数について新規を出さないようにしているとのことだが、昨年よりも減っているかはどのように見るのか。

主任指導主事：

- ・今回の表では同月比較ができないため、来月資料を準備する。

教育長：

- ・スクールカウンセラーへの相談件数について、不登校者数に相談数が比例していない学校があるが、教員がスクールカウンセラーのサポートを受けている実感としての数字なのか、それともカウンセラーの考え方等で数字への表れ方に差ができるのかどちらか。

指導主事：

- ・必ずしもスクールカウンセラーにすべて相談が行くわけではなく、保健室であったり学びの教室などが受けていたりする部分もある。不登校については全体的にはおそらくもっと多い。
- ・学習室の支援の先生や養護教諭、学びの教室の先生が生徒たちへ声をかけるなどそれぞれの先生が分担・共有しながら対応をしているというのも大きいと感じる。

教育長：

- ・逆に言えばスクールカウンセラーにどういうところで力を発揮してもらうのか、横の連携をどのようにとるかが非常に大切だということがわかる。連携について大事にしていくことが重要。

委員：

- ・全国学力学習調査について。小学校6年生で95%、中学校3年生で85%の参加率とあったが、受けなかった子どもたちに対する対応はあるのか。

指導主事：

- ・特に学校のほうから聞いてはいないが、まず算出した母体の数字が知的障がい児学級の子どもたち、不登校の子どもたちも入っているため、このような数字となっている。

委員：

- ・もう一つ、須坂市の子どもたちは学校が好きであり、自己肯定感も高く、先生たちがわからないところまでしっかり教えてくれるという回答が多いが、算数が好きではないという回答であったり、点数が低いという現状であったりが出てくるのはなぜなのか。

指導主事：

- ・何が原因なのかははっきり出てこないのが現状。一つ考えられることとして、先生方は一生懸命教えているが、十分できるまで身につけたのか、そういう授業になっているのかということが一つある。また、教科書的なことはきちんと教えるが、子どもたちが楽しいと思える授業になっているかどうか。テスト至上主義のような形となっており、教えてもらってはいるけれど好きじゃない、という感覚が多いという話題は上がってきている。

委員：

- ・今回のテストや評価を、次の授業のなかでこの問題をみんなでやってみようなど、そういう振り返りはあるのか。

指導主事：

- ・問題の利用については、文部科学省からも学習指導要領のねらいに沿った問題であるから授業の中で使ってほしいということを言われている。校長会や教頭会の中でお願ひもしている。結果をフィードバックして子どもたちに再度解いてもらうという時間があるのかは学校ごとの調査はしていない。
- ・学校によっては夏休みの研修会で先生方が問題を解いて、学年での学習がどこに結びついているのか確認している学校もある。

教育次長：

- ・現在子どもたちの学力について二極化が進んでおり、中間層が減っているという調査結果もあるが、須坂市の場合はどのような分布になっているのか。

指導主事：

- ・須坂市の場合は二極化というよりも、A B C Dの四段階に分けたとすると、C D層が多くA B層が少ないという結果となっている。
- ・ペーパーテストで測れる学力と、本当に生きて働く学力というのは違う面があるため、両方みるということはなかなか難しい面がある。ただ中学校の問題作成委員会のほうでも、知識技能等の問題を50%、思考力判断力表現力の問題を50%の割合で先生方に作ってもらっている。

指導主事：

- ・タブレット、I C Tの利用について、12月に小学校も全部入れ替えとなるが、大きなお金をかけてやっている中で利用率が少ない、使用できていない状況について分析委員の先生方の中でなにか改善策が出ているのか。

指導主事：

- ・授業参観で各学校を回ると、先生方は教師用のデジタル教材をよく使っている。逆に子どもたちは一人一人のタブレットでデジタル教科書を見るというのはまだ少ないと思っている。
- ・I C T機器を使って調査する、プレゼンをする、まとめるという力がついていくかという質問の自己評価は高い。子どもたちはそのような技術を身につけている。ただその技術をどうやって今後使っていくかを各学校でも考えていってほしい。

教育長：

- ・全国学力調査について、そもそもどのようにとらえるかという問題がある。ポイントが低くても、きちんとねらいがあって今低くてもかまわないというようであればいい。

- ・知識理解と活用力について、現在の学力には大きく分けて基礎になる力と生きる力との二つある。生きる力のほうを変えていかなければならない時代が来ている。どのようにそこを改善していくのか、評価していくのか方法を考えていくことが重要。

## (2) 議題

議案第49号 2025年度奨学生の採否について

教育長が説明を求め、学校教育課長が説明した。

特に意見・質問なく承認された。

議案第50号 須坂市子ども・子育て会議委員の委嘱について

教育長が説明を求め、子ども課長が説明した。

特に意見・質問なく承認された。

議案第51号 須坂市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について

教育長が説明を求め、文化スポーツ課長が説明した。

特に意見・質問なく承認された。

## (3) 協議

なし。

## (4) 一般行政報告

ア 教育長出席行事の報告について

教育長が説明した。

イ 行事共催等承認の報告について

教育長が説明を求め、学校教育課長が説明した。

10件中10件承認。新規が1件。

ウ その他

(5) その他

ア 教育委員会行事予定について

教育長が説明を求め、各課長が説明した。

イ 須坂市教育委員会主催・共催大会等への出席について

教育長が説明を求め、学校教育課長が説明した。

ウ 2025年度人権教育啓発標語・ポスター最優秀作品等について

教育長が説明を求め、人権同和教育課長が説明した。

エ その他

なし。

教育長が閉会を宣した。